

6.10. sudo による管理者権限の付与

su コマンドによって一度 root 権限を取得してしまうと、そのユーザは root ユーザが実行できることは何でもできてしまいます。もし、特定の管理者コマンドのみの実行を許可したい場合には、sudo コマンドが利用できます。sudo コマンドを使えば、任意の管理者コマンドを任意のユーザに許可することができます。例えば、「SL6 ユーザには shutdown コマンドの実行を許可する」などです。一般ユーザに root パスワードを知らせる必要がない点も、sudo コマンドのメリットです。

5.10.1. sudo の設定

sudo コマンドの利用設定をするには、root ユーザで visudo コマンドを実行します。すると、デフォルトのエディタで/etc/sudoers ファイルが開かれます。/etc/sudoers の書式は次のとおりです。

```
ユーザ名    ホスト名=(実行ユーザ)    NOPASSWD: コマンド
```

項目	説明
ユーザ名	コマンドの実行を許可するユーザ名か、グループ名、もしくは ALL
ホスト名	実行を許可するホスト名か、IP アドレス、もしくは ALL
実行ユーザ	コマンド実行時のユーザ（省略時は root）、もしくは ALL
コマンド	実行を許可するコマンドのパス
NOPASSWD:	指定すると、コマンド実行時にパスワードを問われない

例えば、SL6 ユーザに対し、全ての root 権限が必要なコマンドが実行できるように設定するには、次のような記述を追加します。

```
## Allow root to run any commands anywhere
SL6    ALL=(ALL)    ALL
```

5.10.2. sudo の利用

設定終了後、実際に sudo を利用するには、sudo の引数として、実行したいコマンドを

指定します。例えば、SL6 ユーザに全ての root 権限が必要なコマンドが実行できるようにするには、次のコマンドを実行します。

```
# sudo su -
```

この際の注意点として、2 点が挙げられます。まず、パスワードを尋ねられますが、入力するパスワードは root ユーザのパスワードではなく、sudo コマンドを実行しているユーザのパスワードである点に注意して下さい。そして su コマンドの引数に“-”を指定する点です、“-”がないと現在の環境をそのままにしてユーザだけを切り替えます。

“-”があると、直接ログインした時と同様に環境が初期化されます。つまり、カレントディレクトリは新しいユーザのホームディレクトリとなり、環境変数も全て初期化されます。